KSKQ第三種郵便物認可<サロン・あべの>通巻5896号2008年5月17日

「大きなWAになって子育て」を実現するために

—子どもの声響く街、あべのを—

〈サロン・あべの〉4月の出会い

桜からさつきの花へと移り行く平成20年4月19日（土）午後1時～4時、育徳コミュニティーセンター2階研修室において、「『大きなWAになって子育て』を実現するために—子どもの声響く街、あべのを—」のお話を中谷邦子（特定非営利活動法人こももネット・代表理事＝写真次頁）さんにしていただきました。

「現代の子育て事情から」

・社会の変遷

中谷邦子さんは、阿倍野区生まれで現在も区民として生活をされており、昔を振り返りながらお話をされました。

自分たちの子どもの頃は、家の周辺には空き地や路地があり子どもたちが遊ぶ場所になっていて、のびのびと育っていました。昭和町には牧場もあったそうで、のどかな情景が浮かびます。が、今はその空き地や路地、民家などが高層マンションや駐車場、100円パーキングに変身しました。小公園も整備されて区内に何箇所かありますが、ボール投げは出来ないなど、禁止内容が多く子どもたちが思いきり走りまわって遊べる場所とはいえなくなっています。家の近くで子どもの声が聞こえる遊び場がなくなり、母親も近隣の人たちとの交流の場を失っていったように思います。住まいも民家からマンションになって個別の生活が始まりました。若い母親は不特定多数の人と話すことが苦手になるとともに、自分自身の日常生活にも不安を抱くようになっていきました。キャリアウーマンであった日々が、わが子だけを見つめる日々になり、子どもに期待を持つほどに育児への不安が大きくなっていく。気分転換ができないと、世の中から疎外されたような気分に陥ってしまう。それを相談できる連れ合いは、仕事が忙しくて帰宅が遅い。母親1人が子育てに責任を感じてしまう。子どもは母親だけで育っていくのではなく、父親もしかり。双方のおじいちゃん、おばあちゃん方の家族、近所の人、お友達のお母

さん、お父さん方など多くの地域の人たちの助言や見守りがあって大きくなっていくものと思います。

・子育ては文化

現在の子育ては、学力をつける、健康である、スポーツが出来るなど多くの期待が寄せられています。良い子に育てなくてはというプレッシャーが母親にあり、それがつのるとイライラが生じてきます。しかし、学力・体力だけで子どもは育つのではないのです。子どもが1日で育たないように、1日で親にはなれません。お互いに向き合うことで育ちあい、力を付けていくものです。それが親力になります。親もその親から多くのことを教えられてきました。それが子育て文化の継承となっていきます。身に美しいと書いて躾というように、正しい躾は良い人格形成につながるともいわれます。お箸の持ち方、お椀の置き場所など配膳の仕方などを見て覚え、言われて覚えていきます。小学校に上がり給食時には自然にそのことが出来るようになっています。挨拶をしたり、脱いだ靴をそろえたり、なども教えられて覚えていきます。また、伝統食は、家族のきずなをつなぐものです。お正月のお雑煮などは、子どもにとって両親双方の食文化を知るよい機会です。日常の和食生活も大切な食文化の伝承です。ヒジキの煮しめ、おはぎ・・・などいろいろあります。しかし、若い母親は食べて知ってはいてもそれを作って食べさせることが苦手になってきています。お店で買えばすぐに手に入る現状があるからかもしれません。そこで、地域グループの人たちが子どもを交えてのお料理講習会を開いたりしています。子どもと若い母親を見守り、さりげない配慮でサポートするボランティアグループが活動しています。これが地域の力といえるのではないでしょうか。

・「つながる」をキーワードにネットワークへ

中谷邦子さんは4人の子どもさんを育てあげられました。

初めての子どもは、細心の注意と配慮で育てたけれど4人目になると、上の子どもたちの遊び仲間が来て騒いでも下の子は気にせずに眠り込んでいて、親も気にしなくなっていました。

子どもの友達のお母さんとは、母親同士も友達になっていきます。その中で親だけでがんばってもしんどい時があるよねという話の中から「子育てボランティア」を呼びかけて「子育て支援」サークル「こももネット」準備会が1997年4月に発足しました。「こもも」は、阿倍野区の木が桃の木なのでその「もも」から命名しました。「こももネット」で子育ての情報交換をして、お互いの知らないことが多いことに気づきました。そこでボランティア養成講座を開講しました。多くのボランティアさんが

参加されるようになりました。リタイヤした保育の専門家や子育てを卒業した高齢者、保育を学んでいる学生さんなどいろいろな方々が参加されました。子どもたちの世話をしていると、元気や力を得られるといわれるようになりました。

また、障害を持っている子どもが中学生になった時、小学校のように授業終了後見守ってくれる学童保育がないということで、活動を広げ支援者や協力者を得て、中学校での見守りの会を発足させました。乳幼児から始まり多くの子育て支援グループが出来ましたので、2002年5月に「阿倍野区子育て支援連絡会」発足となり、ネットワークの実質的な立ち上げとなりました。区の社会福祉協議会の協力を得て区内のサークル、団体に呼びかけました。そして区の事業委託を受けて情報交換から協働作業へと広がっていきました。

現在までの活動は、「連絡会発足記念講演会」「子育て縁日」「子育て支援ボランティア養成講座」などから、新しく「男女平等教育」「親子フェスタ」「エコ縁日」「マタニティ・ママの集い」などが発足しました。情報提供として「子育てミニニュース」（月間）、「あべの子育て情報」（2年に1回程度の発行）、「ままちっち」（子育て中のママたちが作る情報紙）などがあります。子どもを通して情報交換をし、地域での「つながり」を大切にしていきたいと考えています。子育てサークルがつながって「大阪の子育てネット」が出来ています。このモットーは「たこやき」。た＝たのしい、こ＝こと、や＝やさしい、き＝ちいき、となります。地域の人たちと「つながる」ことは時には煩わしいこと、めんどくさいこともありますが、何かがあったとき、困ったことになった時、救いの手が差し伸べられます。話を聞いてもらったり、聞いたりしている間に解決出来ることもあります。「つながる」ことの楽しさを知ってもらい、得るものの大切さに気づいてほしいと思います。皆さんと一緒に出来ることがいろいろあると思います。阿倍野のお母さん方はがんばります！

子育ては自分育てともいえるお話に参加者からは、自分たちの育ってきた環境や子育ての思い出などが語られました。

○昔は欲しい物もすぐには買ってもらえなかった。

○小学3年を頭に3人の子どもを残して主人が亡くなり苦労した。今はそれぞれ結婚し、自分1人の生活でホッとしている。

○子育て支援のことは知っていたが、内容は知らなかった。

○昔は子どものほほえましいいたずらは許されていた。地域全体にギスギスしたものがなく、どこの子どもに対しても包容力があった。

○きょうの子育て支援活動のつながりを聞いて、過去の自分に重なるものを感じた。ボランティア活動を49年続けたが、その思いは母親や祖父たちの姿を見ていて自然にその精神が受け継がれていたと思う。ボランティア活動は受け継がれていくものと感じた。

出会いを楽しみ、そのつながりを大切にしたいと思った4月の出会いでした。

（参加者17名　富田慶子）

45

邦子、・・ん歳の手習い。

依存による自立

前回に続き、夫が生前に語った夫自身の自立についてのお話をさせて頂きます。

夫は、1976年の12月14日に交通事故に遭い、頸椎損傷になりましたが、翌年の1977年10月1日には、復職できました。夫はよく、「日本一早い復職や」と冗談を交えて話していましたが、当時としては、それぐらい早かったのかもしれません。

事故後、夫は復職への強い願いをもっていましたが、「自分だけがそう思っていても、受け入れてくれませんからね。具体的には、リハビリが進んだ段階で、それをみながら、大学の先生方が、府立の大学なので、大阪府と交渉して、一生懸命がんばってくれました」と語っています。大阪府も最初は、こんな重い障害で復職した前例がないということで、渋っていましたが、元気な時と同じように研究ができるとか、教育ができるという条件があれば、復職は大丈夫だろうと、可能性のあるところまで、先生方が交渉してくれました。そのおかげで、夫自身も復職できるという自信をもてたことと、組合も応援してくれたことなどの条件が重なり、早く復職できたようです。

しかし、「僕の場合は、首の骨を折って、頸椎損傷だから、指の握力がゼロですしね。日常生活動作に介助がいるわけですね。トイレの介助、お風呂の介助、移動にしても、服の着替えにしても、介助がいりますからね。復職は順調でしたが、自分はうちの奥さんに頼ったり、介助を受けなければならない。自立といえば、身の回りのことが自分で独立してできるということや、他人に迷惑をかけてはいけないというのが自立だという気持ちが強かったですね」と夫は語っています。

しかし、その夫の自立観を変えたのが、「車輪の一歩」というテレビドラマでした。それは、6人の障害者の男性と若い女性の車イス障害者Aさんのお話です。Aさんはお母さんの保護のもとで、お母さんと一緒でなければ、外出できないような状態にある中で、6人の障害者が応援をして、Aさんの自立を助けていくお話です。最後の場面で、6人の障害者は、Aさんを駅の階段の前まで連れて行って、「自力で電車に乗るために、階段という障害物を1人で乗り越えなさい」と言います。

「車輪の一歩というのはね、Aさんは電車に乗るためには、階段を乗り越えるしかない、それが自立やって言われてね。自分で這い上がっていくことはできませんしね。Aさんは、見ず知らずの他人に対して、私を担ぎ上げてください、私を担ぎ上げてくださいって言うと、みんなが近づいてきて、担ぎ上げたんです。それを見た時に、私の自立に対する考えが180度転換しました」と夫は語

り、新たな自立観について次のように続けている。「自分のできることはしなければいけませんが、自分の力量を超えるような問題ですよね、階段という障害物があった場合は、それから逃げないで、その時には、むしろ見ず知らずの他人に対して、援助を求めるとか、勇気をもって、迷惑をかけていくこと、そのことも自立であるという、これもやはり僕にとっては、大きな気持ちの転換になりましたね」

夫は、多くの方々に助けられ復職し、「自分の力量を超える場合は、勇気をもって他人に迷惑をかける」という新たな依存による自立観を獲得し、社会復帰へと歩き始めました。

（定藤邦子）

ありがとうございました。

カンパ、お茶菓子・切手・バザー用品のご寄贈、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございました。

カスタネット、黒羽玲子、中谷邦子、東谷和代、松森美智子、吉原和郎、その他の方々。（敬称略）

晴れのち晴れ-116-

稲垣恵雄

□寄り道

今でこそ出かけても1ヵ所か2ヵ所ぐらいでもどってくるが、幼い頃や若い時にはよく寄り道や道草をしたものである。

この寄り道と道草は似ているようだが少しちがうようだ。前者は「目的地に行く途中で他の所に立ち寄ること」で、後者は「目的地に達する途中で、他のことに時間を費やす」という意味である。だからどちらも目的地に行くということは同じだが、途中で他の所へ立ち寄るか、それとも他のことに時間を費やすかのちがいがある。

先日、新聞のコラムに「言葉の寄り道」ということが書いてあった。どういう意味かというと、辞書で分からない言葉を調べるとつい次の言葉やその次の言葉を見てしまうことを「言葉の寄り道」というそうだ。

そう言えば、私もこういうことをよくする。例えば辞書で「寄り道」を調べたあと、

○寄り目（瞳が鼻柱の近くに寄っていること）

○縫り目（より合わせた個所）

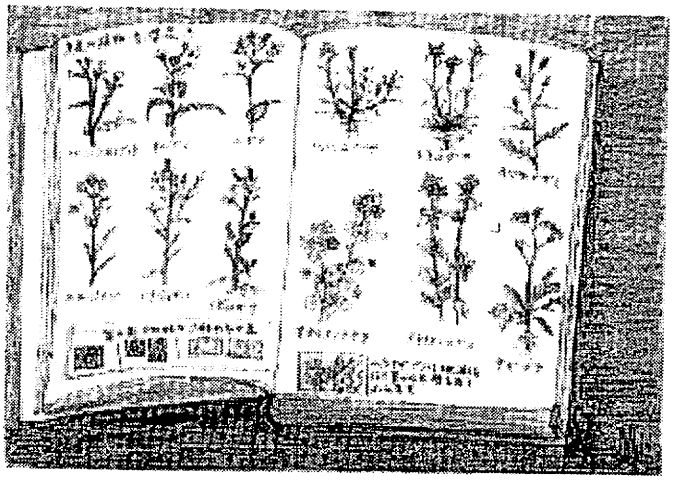
○寄り藻（波風などによって吹き寄せられた藻のこと）

など、次々と言葉を見てしまうのである。

こうしてみると新聞のコラム子が書いておられるように正に「言葉の寄り道」だと思う。外出した時に寄り道するのはあまり良くないが「言葉の寄り道」は知らなかった言葉と意味を覚え、それが積み重なって知識も大いに広がっていくのではないだろうか。

雑草の美しさ

近頃、生け花に興味を覚えている。といっても、生け花教室に通うわけでもなく、生け花を習っている人から何かを教わっているわけでもない。ぜひそんな機会があればと思うが、たぶん当分の間はないような気もする。



今日は、図書館で生け花の本を何冊かリクエストしておいた。というのも、生け花の本など読んだことがないからである。

こんな全くの素人なのだから、読者のなかにはその道十年というかたもいらっしゃるだろうに、何もわざわざ自分の無知をさらけ出すようなことを書かなくても良いようなものだ。しかし、全くこのようなことに縁がなかった五十になろうとする中年男が、突然そんなことに心を傾けだしたということは、その道十年という方には面白いことかもしれない。ということで、ちょっと書いてみることにしよう。

といっても、何か印象的な出来事があったわけでもない。学生時代から雑草には関心があったのである。道ばたに小さな花があったりすると、きれいだなと思う。葉や茎が、それぞれ違っていて面白い。ひとつひとつの草を見たとたん、何科のなんという植物か、どういう特徴があるのか、どこから来たのかといったことが、すらすらと頭のなかに浮かべばどんなに素晴らしいことかと思う。野草の図鑑などを本屋で見かけると、買ってきたりもしていた。

道ばたや空き地に咲く花の名前を知ったところで何かの役にたつわけではない。若い人を相手に教える仕事をしているので、仕入れた知識を彼らに披露してみようかとも思うが、すぐにボロが出そうなのでやったことはない。小学生の長男を相手に話をしたことはあるが、知っていることが限られているの

＊好評のエッセイ＊

岡　知史著

知らされない愛について　700円

ほんの少しの神に近い部分　700円

で、ひとこと二言で話は終わってしまう。

試みたことがある人なら、おわかりだと思うが、雑草の名前を知ることはそんなに簡単ではない。植物図鑑の絵と照らし合わせても、よくわからないことが多い。同じようなものがいくつもあるし、またどれにも似ていないようなものもある。

雑草の名前など知らなくても良いではないかという意見もあるだろう。たしかに、そうかもしれない。しかし、私がなぜ雑草の名前を知りたいのかと改めて考えてみると、それは草とその花を美しいと思ったときに、その次にできるのが名前を知ることだからである。愛おしいと思うものに近づく一つの方法がそこにある。

だから、名前を知る代わりに、草の絵を描いてもいいのだ。絵を描くひとは対象を美しいと思い、それに近づきたいから絵に描きたいと思うのだろう。私には絵は描けそうにないから、名前を知りたい。名前は対象に近づく一つの手がかりである。

話を元にもどせば、生け花も私には草の名前を図鑑で探す行為と同じ延長線上にある。草に近づきたいと思っているだけなのである。

そんなわけで百円ショップで買ってきた安物の小さな花瓶に、道路脇に咲いていた雑草の花を生けている。適当にどんどん刺していたら、なんだか汚くなってしまった。妻がいくらか抜いて形を整えると、不思議なことに、すっかりきれいになっている。習ったことはないのだが、生け花というものはきっとさぞ奥の深いものなのだろうと考えたわけである。

（知）

○ききみみずきん

エレベーター

<サロン・あべの>が定例会を開いている育徳コミュニティーセンターへの一番近い最寄り駅は、地下鉄御堂筋線「西田辺駅」です。この駅からですと徒歩5分もかかりません。駅には、エスカレーターが階段に並行して設置されています。これまでこの地下鉄を利用するには、インターホンで駅員さんを呼び出し、エスカレーターを車いす対応にしてもらっていました。が、ようやくこの4月にエレベーターが開設されました。西田辺交差点南出口角の歩道からすぐにエレベーターに乗ることができます。この地下鉄は、私が子どもの頃にできました。昭和町から西田辺区間は露天掘りのような作りで、上から覗き見ることができるほどでしたので浅いのです。エレベーターもドアが閉まるとすぐに、ドアが開く感じでホーム階に出ます。これまでのように、エスカレーターを止めて乗り込むという手順が省かれ、待ち時間もなく助かりますし、気持ちも楽になりました。今まではエスカレーターが車いす対応になっている間、一般の乗客が使えず心苦しい思いがしていました。若い元気な人なら階段を利用されても体に良いと思えますが、高齢者や小さな子どもさん連れが階段を1段ずつ確かめながら行く姿を見るのは本当に申し訳ないと思いました。これからは誰もが気軽に安心して利用できるエレベーターがあるのですから、遠方からでも車いすで来てくださいとご案内が出来ます。ここの券売機も車いす対応になっています。券売機の下が空いており入金や行き先スイッチも押しやすいですし、お金を入れるところも朝顔のように開いていますので硬貨をバラで入れても落とすことはありません。（け）

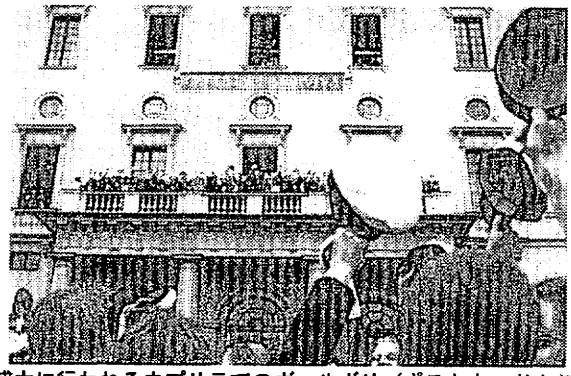
Mai スウェーデン留学記 20

春のお祭り-Valborg(ヴァルボリ)-

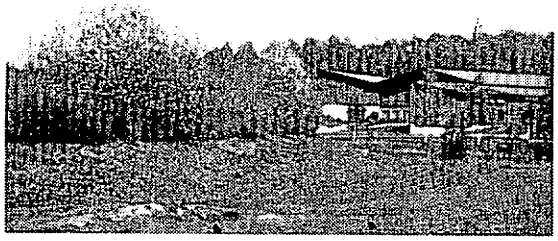
「ヘイ　舞。スウェーデンでは4月30日はヴァルボリのお祭りだよ。覚えてる?」スウェーデン人の友人から届いたメールを読んで、4月30日のこの祭りのことを思い出しました。

スウェーデン語で「ヴァルボリ」と言うお祭りは、英語では、「ワルプルギス」は、春の訪れを祝う大切な行事。ドイツでは、ワルプルギスの夜(4月30日)に、魔女達が集まり、宴会をすると言われていますが、スウェーデンでは、昔、この時期に魔女が活発化すると信じられて、魔女を追い払うための儀式でもあったようです。現在、魔女を信じる人なんていませんが、このときの名残りがあって、小高い丘に焚き木を組み、その焚き木を囲みながら、温かい飲み物やお酒を飲んで、春の訪れを称える歌を歌ったりします。ちなみにワルプルギスというのは、聖人の名前なのです。歴史的にみるとキリスト教とヴァイキングの風習が混じり合ったお祭りです。

そんなヴァルボリのお祭りを私はヴェクショーで迎えることになりました。実はこのお祭りが盛大に行われるのは、ストックホルム、ウプサラ、ルンドという学生街なのですが、ちょうどヴァルボリのお祭りの前日から天気も悪く、ストックホルムとウプサラまで出かける気がおきなかったので、あきらめてヴェクショーで過ごすことにしました。ストックホルムまで出かけようと思えば、旅行として行かないといけないくらい遠くて。ウプサラはヴァルボリのお祭りの発祥地といってもいいくらい、とても盛大なお祭りです。学生達が、白い帽子を一斉に空に放り投げて、大聖堂の鐘がなり、それはそれは素敵なはずです。白い帽子と青い空を想像するだけで、胸が高鳴ります・・・でも天気が悪いとどこにいても同じなので、お金のかからない方を選んでしまいました。



盛大に行われるウプサラでのヴァルボリ（ポストカードより）



5月・・・ヴェクショーにもようやく春が到来

ヴェクショーでは、盛大とまでいかないのですが、それなりに、楽しむことができました。夕方は、大学内で、コンサートやダンスを見ることができ、とても楽しい思いをすることができ、大満足。夜は、街で火を焚き、花火も打ち上げられるということ・・・湖に、打ち上げられた花火が映るとそれはきれいなはず・・・雨さえ降っていなければ。でも、その日は、雨がやむどころか、激しくなってきて、しかもとても寒い・・・さすがに雨の中打ち上げ花火を見に行く気がせず、寮の部屋で、かすかに聞こえる花火の音を聞きながら、過ごしたのでした。。。雨だと日本なら中止にしそうですが、そこはスウェーデン。中止なんかしません。

春のお祭り・ヴァルボリ
（ストックホルム・バックの建物は市庁舎）

後で聞いたのですが、毎年、この日は冷たい雨が降ることが多いそうですが、それでもこのお祭りのために雨に濡れながらでもスウェーデンの人々は集まって、お酒を飲んだり、歌を歌ったりして春を喜び合うのだそうです。

スウェーデン人並のパワーとガッツが出なかった私は、やっぱり日本人。ただ、この国の人達の春に対する喜び、長い冬が終わったという喜びは、やっぱり日本人とは違う思い入れがあるのだと思い知らされました。

ヴァルボリのコンサート（ヴェクショー大学にて）

長い冬が終わり、5月になると、ようやく日中も暖かくなり、草花は咲き誇り、木々の緑は眩しいくらい生き生きとし始めます。鳥がさえずり、湖の氷も解け、生き物すべてが、春の訪れを待ちわび、到来を喜んでいるように感じます。それは本当に特別なことなのです。

日本にいると、私もそこまで春が来た！次は暑い夏か・・・という感じで、そんなに特別にうれしいという思いがしませんでした。でもスウェーデンにいたころ、私も他のスウェーデンの人々と同じように、春を春を・・・と待ちわび、夏を恋しがっていました。

とても大切な春のお祭り、ヴァルボリ。メインの焚き火を見れなくて、心残りだと思いながら、私はスウェーデンを発ちました。ヴァルボリのお祭りの時期にスウェーデンに行くことができたら、絶対に参加してやろうと心に決めて。

あれから、2年経ちます。そして、また今年も参加できていません。そんな私に友人達は、「写真を送ってあげるから」と慰めてくれますが・・・

今年のお祭りはどうなっているでしょうか。日本の桜の花を見ることをとても楽しみにしているヨーロッパに住む友人達に、桜の写真を送りながら、懐かしい思いがこみあげてきました。

（清原　舞）

美智子のこんな話

岸田美智子

住吉区アクションプラン
―何しよう！　どうしよう！―

トイレ貸します運動を始めて、約1年がたちました。この間、他のメンバーを中心に拡大キャンペーンを実施した結果、協力施設やお店、団体など100カ所以上集まりました。この集計を元にトイレマップを制作中です。またそのマップのPR方法や、配布先なども検討中です。

そして、このトイレ貸します運動には、一区切りをつけ、今後この部会として何をやっていくかという、話し合いを先月に続き今月も行いました。でも、なかなか高齢者や障害者の共通の課題で、気軽に誰でも取り組める課題を見つけるのは大変難しく、気長な話し合いが必要だと感じました。

今後どうなるのか心配ですが、当日部会メンバーから出た意見を次に書いてみます。

○高齢者の課題も取り入れてほしい。
○住吉区に生きてきてよかった、と思える街づくり運動がしたい。
○高齢者と障害者が自然災害時の時などに避難できる態勢作りを一歩一歩作っていきたい。
○人生のベテランである高齢者の方達の話を聞きたい。
○老人会の中にある助け合い運動を障害者にも広げていけないか。
○他の部会で活動している子ども見守り隊との連携を持って主体的に、セーフティネットを地域で考えていきたい。
○高齢者の発表の場を作りたい。
○AED（※）の講座をやりたい。
○100歳や米寿などの節目の高齢者をお祝いする友愛訪問をやってはどうか。
○団塊世代がボランティア活動に参加してほしいので、今後の街づくりのマンパワーとして関わっていきたい。
○地域活動部会などの他の部会と連携をとっていくなかで、いろんな人とのつながりができたり、街作りの課題も見えてくると思う。

高齢者や障害者がもっと出歩きやすいキーワードが見えてくると思う。

以上のようないろいろな意見が出ていますが、さて、どうなっていくのでしょう。

（※）AED（自動体外式除細動器）＝心肺蘇生を行う器具

お知らせ

<サロン・あべの>6月の出会い

内　　容…母を語る―ハハ、のんきだねぇ―
お客さま…稲垣恵雄さん
（本紙に「晴れのち晴れ」連載中）
日　　時…6月21日（土）午後1時～4時
場　　所…育徳コミュニティーセンター2階
研修室（スロープ・車いすトイレ有）
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL　06－6621－1901
最寄り駅＝
地下鉄御堂筋線「西田辺」
下車すぐ
会　　費…なし
問い合わせ先…
TEL 06－6691－1028（冨田慶子）

SALOON

6月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」6月の出会い

日　　時：6月15日（日）午後1時30分～4時
内　　容：大正琴のよい響きとよいつながりを
　　-大正琴の音色に心安らいで見ませんか-
ゲ ス ト：中津和美氏（大阪市音楽コミュニケーショングループ連絡会代表）
会　　費：なし
場　　所：淀川区民センター「やすらぎ」
　　大阪市淀川区三国本町２－１４－３
問い合せ先：淀川区社協（ボランティア・ビューロー）☎０６－６３９４－２９００
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」6月の出会い

日　　時：6月28日（土）午後1時～4時
内　　容：子どもたちと一緒にうどん作りをします
会　　費：なし
場　　所：西淀川区子ども子育てプラザ
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
　　☎０６－６４９４－０６３５
　　中本☎０９０－９８６４－９６７８

■サロン「アイ」6月の出会い

日　　時：6月14日（土）午後1時30分～4時
内　　容：相談援助の仕事と私
　　～２３年間を振り返って～
ゲ ス ト：末長秀教氏
　　（生野区社協抱括支援推進担当主査）
会　　費：なし
場　　所：生野区在宅サービスセンター
　　「おかちやま」２階ボランティアルーム
　　大阪市生野区勝山北３－１３－２０
問い合せ先：生野区社協（ボランティア・ビューロー）☎０６－６７１２－３１０１
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
　　☎０６－６７５７－８５７４

■「サロン・にし」6月の出会い

日　　時：6月14日（土）午後2時～4時
内　　容：指文字と手話を楽しく学ぼう！
ゲ ス ト：「手話サークルながほり」の方々
場　　所：西区在宅サービスセンター「ながほり」
　　大阪市西区新町４－５－１４
　　☎０６－６５３９－８０７５
会　　費：なし
問い合せ先：関口　☎０９０－４２８１－５６４１

■《てくてく・すみよし》6月の出会い

日　　時：6月14日（土）午前11～
内　　容：お好み焼きパーティー
場　　所：あびさんサロン
　　［大阪市住吉区我孫子３－１０－１６］
会　　費：１０００円～
申し込み・問い合わせ先：
　　山本篤江☎０６－６６９２－８４１１
　　携帯０９０－５１６８－５９７７

■「サロン・つるみ」6月の出会い

日　　時：6月1日（日）午後1時30分～4時
内　　容：いつでもどこでもお話を。
　　心と心の響き合い
ゲ ス ト：銻（かざり）栄美子様
場　　所：鶴見区民センター３階
会　　費：なし
問い合せ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロ）
　　奥井☎０６－６９１３－７０７０

■「サロンいたみ」6月の出会いはお休みです

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第262号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

(a) 〈サロン・あべの〉紙は、第１号より第262号までそろっています。
(b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
(c) 絵本「未知の記憶」（作・絵 中川勝彦）
(d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分（３０分）
(e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」（岡本栄一著＝糸でんわ音訳）
(f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」（山田誠１９９５・２・２２著 ＝糸でんわ音訳）
(g) 「金子みすずへの旅」（島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ）
(h) 「夕やけ空のオニヤンマ」（牧口一二著＝糸でんわ音訳）
(i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」（曽我部教子著＝糸でんわ音訳）
(j) 「セルフヘルプグループ」（岡知史著＝糸でんわ音訳DJ）
(k) 「名物　天王寺かぶら」（猿田博創作　難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作）
(l) 「知らされない愛について」（岡知史著＝ぽけっと音訳）
(m) 「愛　ひとり旅」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ）
(o) 「もうちょっと知っとく？　私たちの阿倍野」（難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ）
(p) 「猫とシャンソン」（奥田真祐美著＝糸でんわ音訳）
(q) 「ほんの少しの神に近い部分」（岡知史著＝糸でんわ音訳）
(r) 「勁くしずかに」（河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳）
(s) 「たまごが　ポン！」（稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ）
(t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた（猿田博＝糸でんわ音訳）
(u) 交わりのなかで　～ホームヘルパー残像～（加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳）
(v) 冨田慶子出演の「ちょっといい話」（朝日放送05.6.26と05.9.18）の録音テープ

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、冨田（☎０６・６６９１・１０２８）まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

寄りみち

■童謡♪絵はがき・青い眼の人形。昭和の初めにアメリカから日本の子ども達に贈られた人形１万数千体は、それぞれに名前を持ち、本物そっくりのパスポートやビザまで携えていたのですが、歓迎のために作られた「人形を迎える歌」からは人形に対する親愛の情は湧かず、形式的な内容に終始していました。一方、「青い眼の人形」では、人形に「わたしは言葉がわからない　迷ひ子になつたらなんとせう」と語らせ、人形の所有者である子ども達に慈愛の心を起こさせるようにしています。これが第２次大戦中には憎悪の対象として焼かれたり破壊されたりしました。そのうち戦渦をくぐり抜けて今日残っているのは、数百体とか。（石）

＜サロン・あべの＞VOL.２６３　発行：平成２０（２００８）年５月１７日　定価￥１００
編集人：＜サロン・あべの＞運営委員会　表題：中西利香・筆　文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町６－３－２６ 冨田慶子方＜サロン・あべの＞
TEL・FAX 06-6691-1028　　郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印　刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターＤビル２Ｆ TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/「サロン　あべの」でも検索できます

発行人：関西障害者定期刊行物協会［大阪市城東区東中浜2-10-13 緑橋グリーンハイツ１Ｆ］

一九九一年九月三日第三種郵便物認可（毎日発行）